



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2021年12月12日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般 : 5名(うち中学生2名)

指導員 : 4名

テーマ 葉が落ちて見えてくるもの

紅葉もほぼ終わり、葉を落とした木々が増えてきました。そうになると、今まで葉の陰に隠れていたもの—冬芽、木の実、着生植物、蓑虫、鳥の巣などが目立ってきます。

道路脇のコブシは葉が落ちた枝先の花芽が膨らんでいるのがよく分かります。堤防道路から川原を眺めるとセンダンの枝に黄色の実がたくさんついていました。この実はムクドリなどが食べるのですが、クロガネモチなどとともに比較的遅くまで枝に残っています。

モクパラの池の近くのエノキの太い幹には着生シダがついています。よく見かけるノキシノブのほかにもシノブも見られました。シノブは山の中の大きな木の幹や岩壁に着生することが多く、街中でみることは稀です。地上3m程のところからエノキの幹を這い、直径1cm程度の莖から何枚か葉を伸ばしていました。莖は地面には達していませんが、寄生ではなく、単に付着しているだけです。

シダのほか、エノキの幹の分岐している所では、落ち葉などが溜まってできたわずかな土壌から芽生えた植物—ヤブラン、アオキなどが生育していました。

さて、桜の枝で蓑虫を探しましたが、見つかりませんでした。寄生蜂の影響で蓑虫がほとんど見られなくなった時期があったものの、近年は復活傾向にありました。昨年はそこそこ見られたのですが、個体数の増減に波があるのか今年はどうも少ないように感じます。それでも水路脇のミソハギの枯れた莖にオオミノガの蓑2個を見つけたことができました。

虫は姿も鳴き声もすっかり減ってしまいましたが、もう寿命が尽きかけたといった感じのハラビロカマキリが木の枝にじっと止まっていた。それでもエノキの幹の根元で落ち葉めくりをしたら、越冬中のゴマダラチョウの幼虫、エサキモンキツノカメムシ、ムーアシロホシテントウ、ヒメカメノコテントウなどが見つかりました。地面近くの葉の裏にはいろいろな小さな虫が潜んでいますね。

今年は季節の進み方が例年と違っていているのか、昨年は咲いていたミヤマウグイスカグラやベニバナトキワマンサクもまだ蕾でした。冬鳥も飛来が遅いのか、最近になってやっとツグミの姿を見かけるようになりましたが、木曽川のコハクチョウはまだのようです。

(報告：齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥：オオタカ、ツグミ、シメ、メジロ、ウグイス、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、モズ(声)、コゲラ(声)

虫：イセリアカイガラムシ、ヨコツナサシガメ その他の動物：ワカバグモ、ウシガエル(オタマジャクシ)

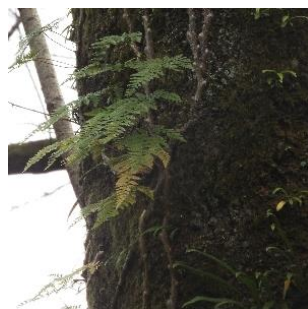
花：シキザクラ 実：キツタ、アオキ、サンシュユ、トベラ、ナンキンハゼ



(落ち葉めくりで見つかった虫を観察)



枝に残ったセンダンの実



エノキの幹についたシノブ



ゴマダラチョウの幼虫



ヒメカメノコ&ムーアシロホシ